

特集

縄文の顔を訪ねて

日本最北の仮面

「先生、人の顔が出たあー」。

一九八六年（昭和六十二）道
道高速インター線改良工事に
伴う発掘調査中の千歳市ママ
チ遺跡で、発掘作業員が上げ
た叫びに、若き考古学者、長
沼孝さん（現・北海道立埋蔵
文化財センター所長）は飛ん
でいった。「即座に思ったのは、
土偶の顔かなと。ところが土
偶よりずっと大きな人面が
あったんです。ダジャレじゃな
いですけど、面食らいました」。
これが、日本最北の土製仮面
発見の瞬間だった。さらに驚
くべきことに、その真下に縄
文時代晩期の墓があった。長
沼さんいわく「仮面が墓の中
ではなく墓の上にあったとは
どういうことか。柱を立てた
穴の痕跡も確認できたので、
私は、墓標の柱に仮面が掛け
られ、柱が腐ったために仮面
が落ちたと考えました。考古
学は警察の捜査と同じで、出
土品という物的証拠と、それ

（写真上）ママチ遺跡から出土した国指定重要文化財の仮面。粘土を焼いて作られたもので、穴に紐を通せば、顔に装着することができる。北海道立埋蔵文化財センターにて展示。高さ17.9cm×幅18.4cm×厚さ5.1cm
文化庁所蔵（写真中央）仮面と墓の関係を長沼さんが推測し、報告書に掲載した図。

文＝北室 かず子
写真＝田淵立幸



遺物が語る北海道の縄文文化

今から約15,000年前から約2,400年前までの間、
一万年以上にわたって続いた縄文時代。

「北海道・北東北の縄文遺跡群」として世界文化遺産にも登録されている。

遺跡から発掘された仮面や土偶には、多彩な顔が見られる。

縄文の人々は、顔に何を表現したのだろうか。

北海道の豊かな縄文文化を物語る、縄文の顔に会いに行こう。



現物から歴史を検証する長沼さん。国宝「北海道白滝（しらたき）遺跡群出土品」など、多くの発掘調査の実績がある。



がどのように出土したかという状況証拠の両面から考えます。仮面の用途といえど現代においても変身ですから、シャーマンが祈禱をする際、トランス状態になった様子に変身するためのものだったでしょう。シャーマンとは、人々を病気などの災厄から救うために祈ったり踊ったり呪術を行う人物です。そのシャーマンが死んだので、墓標に掛けたというのが僕の考えです」。

マチの仮面には、北海道立埋蔵文化財センターの展示室で会うことができる。大きなガラス窓が開かれた回廊から道立自然公園野幌森林公園の森を眺めつつ展示室に向かうと、まるで縄文人の棲み家に分け入っていくような気持ち



北海道立埋蔵文化財センターの展示室は、石器、土器など材質別に展示。「縄文工房」では滑石を利用した各種玉づくり、ミニチュア土器・土偶づくり、砂絵づくりなどが、予約不要、無料で体験できる。受付時間9:30～15:30。●北海道立埋蔵文化財センター／江別市西野幌685-1 ☎011・386・3231。9:30～16:30、月曜、年末年始休館。臨時休館あり。GW、海の日、山の日、敬老の日、秋分の日、スポーツの日、文化の日以外の祝日は休館。



になる。

長沼さんはこう言う。「縄文文化研究の第一人者である小林達雄先生によると、土偶とは縄文人が考える精霊であるとのこと。精霊とは、岩手県の座敷童子や沖縄県のキジムナーのような存在で、縄文人は精霊の姿を土偶にして祈ったり、身代わりになつてもらったりしてきたのです。北海道の土偶は墓に伴って発見されるものが多く、埋葬や葬送の儀礼と強く結びついています。また、北海道の縄文の墓は副葬品が多いのも特徴です」。



千歳市美々4遺跡のヒスイ。鉄より硬いヒスイに穴を開けるには技術が必要。ひとつの遺跡の多数の墓からヒスイが出土した例は全国でもない。

展示室では、千歳市美々4遺跡の墓の副葬品である、新潟県糸魚川産のヒスイも見ることができる。縄文人にとって遠来の貴重なものなら相続すれば財産になるのに、それをしない。長沼さんは一代限りとすれば相続争いも起きないという。縄文時代は集団で争った痕跡がなく、戦争がない時代だとされている。長沼さんいわく「縄文時代後期は寒冷化し、食料が減る厳しい環境となったため、ムラは少人数に分散しました。そんな中で環状列石を造ったり、周堤墓を



2体が重なった状態で出土。形状の違いから男女を表現している可能性が高いと考えられている。北海道指定有形文化財。江別市大麻3遺跡。(左)高さ15.4cm、(右)13.3cm。江別市教育委員会蔵、江別市郷土資料館で展示

造ったり、多大な労力がかかる、つまり腹の減る大土木工事を行いました。それはなぜか。仲間の絆を大事にするためです」。

縄文人が作った土偶に現代人が芸術的な魅力を感じるのには、ホモサピエンス同士、脳に相通じる部分があるからだと言ひ沼さんと言う。

「最新のDNA分析で現代人も約十割は縄文人の遺伝子を持っていることがわかっています。今、われわれが使っている包丁や釣り針といった道具も、イヤリングや首飾りなどの装身具も、材質が違うだけで縄文時代にはすべて揃っていたんです」。たしかにその通りだ。美々4遺跡の土偶や、二体が重なって出土した江別市の土偶、根室市初田牛20遺跡の墓域から見つかった日本最東端の土偶など、現代の造形に勝るとも劣らず、胸に響くものがある。それは、縄文人と私たちが魂の奥深くでつながっているからなのだろう。

世界文化遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」を擁する北海道・北東北は、縄文時代、豊かな森とサケなどが上る川、海に恵まれた



① 北海道では珍しい遮光器土偶に類似した土偶の頭部は、津軽海峡を越えた交流を物語る。北斗市添山(そえやま)遺跡。5.7×7.7×4.9。北海道博物館所蔵



① 日本最東の墓域から出土した板状の土偶。18個の破片から復元された。北海道指定有形文化財。根室市初田牛20遺跡。18.0×11.7×2.5。根室市歴史と自然の資料館所蔵・展示。撮影＝佐藤雅彦



① 顔に仮面を被り、身体を布でくまれ埋葬された死者を表現したと考えられる土偶。札幌市N30遺跡。24×17.5×胴部2・頭部7。札幌市埋蔵文化財センター所蔵・展示



① 胸と膨らんだ腹から妊娠中の女性とされる土偶。全身に赤い顔料が塗られていた。千歳市美々4遺跡。19.6×9.5×2.3。北海道立埋蔵文化財センター所蔵・展示



① 仮面を表現した土偶の頭部。顔のまわりや頭の突起に遮光器土偶の影響が見られる。洞爺湖町高砂貝塚。10.6×9.0×6.0。洞爺湖町教育委員会所蔵、入江・高砂貝塚館で展示



① 木古内町郷土資料館「いかりん館」で見られる土偶。仮面をつけて踊るようなしぐさから呪術や儀礼の表現とされる。木古内町新道4遺跡。16.0×8.8×2.8。木古内町郷土資料館所蔵・展示

環境にあった。人々は約一万五千年前には定住を始め、その後、一万年以上の間、気候の温暖化や寒冷化といった環境の変化に適応した。

一万年間といってもピンとこないが、ヨーロッパでは旧石器時代から古代ローマ帝国の成立までの長い年代に相当する。戦争を回避し、

絆を結び、豊かな精神文化を育んだ二万年だ。縄文の顔には、その心が宿っている。「展示施設や遺跡を訪ね、現地の空気に触れて、遺物

の实物を見て、そして本物の力を
感じていただきたいですね」と、長
沼さんは語ってくれた。

さて、土偶といえは、北海道初
の国宝も土偶である。函館市尾札
部町（旧南茅部町）の著保内野遺



●函館市縄文文化交流センター／函館市白尻町551-1 ☎0138・25・2030。9:00～16:30（4月～10月は9:00～17:00）、月曜（祝日の場合は最も近い平日）、毎月最終金曜、年末年始休館。一般300円、小学生～大学生150円。



北海道初の国宝とな
った中空土偶。縄文人
の装いがうかがえる。
函館市所蔵・函館市
縄文文化交流センター
で展示。写真提供＝
函館市教育委員会

跡から発見された中空土偶だ。高
さ四一・五センチ、幅二〇・一センチと中空
では国内最大。全身に幾何学模様
が刻まれ、造形的にも優れている。
CTスキャンによる調査で明らか
になったのは、補強するところと
しないところが区別されていたこ
とだ。何らかの理由で壊すことを
前提に作られたものでありながら、
壊す際に幾何学模様が損なわれな
いよう配慮されているとの解釈も
ある。その美意識の高さに世界が
うなづいたのは当然のことだろう。

函館市には三百二十六カ所もの
縄文遺跡があり、中空土偶をはじ
め多くの遺物が発掘されている。



函館市内の縄文遺跡は津軽海峡南岸が望める海沿いに
多く、南岸との活発な交流が想像できる。写真は蛸子川
（えびこがわ）1遺跡。写真提供＝市立函館博物館

世界文化遺産に登録さ
れた十七の構成資産の
うち、大船遺跡と垣ノ島
遺跡の二つも函館市に
ある。

市立函館博物館学芸
員の佐藤智雄さんはこ
う語る。「多くの遺跡を
支える経済力があつた
ということ。縄文時代
前期頃には島だった函館
山がランドマークとなり、
舟を使って行き来できた
ことで、モノの交換など
が活発に行われる社会
が生まれたのです。当時



戸井貝塚の貝層標本で角偶が出土した場所を指す佐藤さん。縄文人が懸命に生きた証が貝塚にはある。

を想定して私たちは北海道、青森
県という区別ではなく、津軽海峡
北岸、南岸という言い方をしてい
ます。津軽海峡にはイワシやマダラ、
冬には子連れのオットセイの雌の
グループも北太平洋から越冬に來
ます。この豊かな漁場を共有し、
互いの様子も見える同一の文化圏
を作っていたからです。江戸時代
には下北の住人が、今の函館市に

縄文人はさまざまな素材で人の形を表現した。土で作った土偶の他に、石を磨いて作った岩偶、石を打ち欠いて作った異形石器、骨

顔から広がるイメージ

井地区に畑を持っていて作物に水をかけに通っていたほど、海路を利用した距離感は近いのです。



●市立函館博物館／函館市青柳町17-1 ☎0138-23-5480。9:00～16:30(4月～10月は9:00～17:00。いずれも入場は閉館30分前まで)、月曜、毎月最終金曜(特別展等の期間は除く)、祝日(GW、文化の日を除く)、年末年始休館。臨時休館あり。一般100円、小学生～大学生50円。

で作った骨偶、角で作った角偶がある。戸井地区で発見された戸井貝塚は、そのバリエーションが豊かなのだ。



①

両眉と鼻は1本のひもで作られ、両目は小さな粒を貼り付けてから目が開けられている。身体に縄ひもの文様がある。函館市サイベ沢遺跡。6.7×6.8×1.3。市立函館博物館所蔵・展示

表と裏の顔が異なる土偶。佐藤さんは、慈悲と憤怒の両面を表す阿修羅(あしゅら)像との共通点を指摘する。5.6×3.8×2.3。市立函館博物館所蔵・展示・写真提供



②

戸井貝塚から出土した希少な角偶。シカの強さと美しさの象徴ともいえる鹿角への憧れがうかがえる。5.6×4.4×0.6。市立函館博物館所蔵・展示

戸井貝塚でとりわけ有名なのがシカの角で作られた角偶である。北海道開拓記念館(現・北海道博物館)が展示のために、膠着剤を塗って貝層を剥がした際、貝や骨や土器のかげらなど多様な遺物を含む良い標本がとれた。それを見ていた佐藤さんらが余った膠着剤でもう一回、貝層の剥ぎ取りにトライしたところ、くっついてきたのが、世にも珍しい角偶だった。し

かも手足がついたヒトガタの角偶は全国でも五体ほどこしか出土していない。「運命のようなものを感じました」と、佐藤さんは振り返る。「人は、天井に浮き出た木目にさえ目や鼻を見出そうとするほど、顔を探そうとする生き物です。顔は相手が自分にとって危害を及ぼす存在か否かを判断する大切な材料ですからね。顔のないものは神や精霊、自然そのものの象徴とい

縄文の顔を訪ねて

権現台場遺跡から出土した板状(ばんじょう)土偶。箱館戦争の際、五稜郭を守るための大砲が設置されたことから命名された。7.9×4.3×0.7。市立函館博物館所蔵・展示・写真提供



開けているか眠っているようです。亡くなったムラのリーダーか呪術師をモデルに作られたという意見もありました。前髪には、この時期の土器に使われる雲形文のようなカールがかかり、両耳脇の髪はミズラに結われています。胸には乳房の膨らみが緩やかに表現されています」。

浜町A遺跡から出土した土器。市立函館博物館所蔵・展示

えるのではないのでしょうか。たとえば権現台場遺跡(函館市)の土偶には顔がありません。身体にはタスキの背と腹側を逆にかけてような文様、ヘソまで下りた垂乳根の乳房、ヘソも、ヘソなのか、装飾品なのかわからない丸い形。天岩戸に隠れたアマテラスを救出するために踊り乱れたアメノウズメのように見えませんか」。

佐藤さんが「女名沢の呪術師」と名付けている土偶もある。「この土偶と出会ったのは、やっと現場を切り盛りできるようになった駆け出しの頃。土偶といえば遮光器土偶のような宇宙人や深海生物に似たものばかりと思っていたのに、



函館市の女名沢遺跡から出土した「女名沢の呪術師」。ミズラとは両耳のあたりで束ねた髪型。7.2×6.7×1.6。市立函館博物館所蔵・展示・写真提供



何と、この土偶は発掘作業を手伝ってくれた地元の母さんに似ていたのです。眉は一本で表され目と口は薄目を



戸井貝塚と川をはさんで隣接する浜町A遺跡の土器には、あまりにも有名なアニメの主人公そっくりの顔がついていた。佐藤さんいわく「アニメーション監督の宮崎駿さんが『トトロのモデルは縄文時代の森の精』と語っておられる記事を読みました。この土器は、住居が埋もれて森に還る最後の段階に置かれていました。縄文人はこの土器を使って何かをしたんでしょうね。人が集まり、行動するには儀式が必要です。日本人は現代でも結団式とか入学式によって絆を確認し合い、モチベーションを高めていますよね。土偶や顔のある特別な土器はとも多様で、そういう際に使われたのだろうと思います。もともと世界の人々に北海道の縄文を知ってもらいたいですね」。

交流によって互いを豊かにし、苦しい時こそ絆を深めようとした縄文時代。共存の知恵が一万年もの長い文化を持続させたのだ。縄文人が残した多彩な顔は、現代にも通じることを語りかけている。さあ、縄文の顔に会いに行こう。